

図書案内

2021年 6月号

担当 3-4 春日 3-5 羽田

心の中はいつも晴れ

6月は雨が多く、じめじめとした日が多いため気分が下がってしまう日もあるでしょう。そこで今回は、私たちの心にかかった雲をふきとばしてくれるような本を集めました。掲載した本の中には写真が多い本もあります。何も読む気にならない人は写真が無心で見るとも良いリフレッシュになると思います。他の月に比べて少ない休日を満喫するためにも、本を手にとってみてはいかがでしょうか。

図書館で貸出しています。

『どこかの事件』 星新一

星新一が描く物語の主要人物は、平凡なサラリーマンや少し冴えない男が多い。しかし、彼らの生活は、とある些細な事件によってほんの少しだけ変わったものになる。

日常の中に潜んでいるかもしれない少し不思議な出来事に、きっと心を奪われることだろう。特におすすめの話は、会社勤めの男が主人公の「カード」という作品だ。秘密組織のカードを拾った男の奇怪な運命を、ぜひその目で追ってほしい(羽田)

<SUR 特別調査行動部員・17号>



『羊と鋼の森』 宮下奈都

一人の高校生がピアノの調律に魅せられ、調律師を目指す物語です。何度も失敗を繰り返し、周りに迷惑をかけることもありながら、一人前の調律師として成長していく姿は否応なく、僕たちを引きつけます。

この本の最大の特徴は、綺麗な表現にあると僕は思っています。読むだけで心が洗われるような、そんな美しい表現をぜひ見てください。(春日)

「ピアノで食べていこうなんて思っていない。」
和音はいった。
「ピアノを食べて生きていくんだよ。」



『空の名前』 高橋健司

空に浮かんだ雲の形、滴る雨の姿、美しく散る光の粒、私の隣を吹き抜けて行く風の色……。この星が生み出した神秘の名前を、この本に出会うまではほとんど知らなかった。ただ一言に雲と言っても、その姿形は様々で、日本人はその一つ一つに名前を付けてきた。

めったに見られない光景の写真などを交えた解説で、空の奥深さを知ることだろう。(羽田)

一とほりむら雨はるる跡よりも夕日のわたす虹のかけはし(常白詠草・雑)



『麦本三步の好きなもの』 住野よる

麦本三步には好きなものがたくさんある。例えば、歩くことや図書館、ブルボンのお菓子などがそうである。麦本三步とは、嫌いなものだけでなく、好きなもの話をしてほしいと願う、どこにでもいる大人のことなのだ。

この本を読んだあなたが、辛いこと、嫌なことを一瞬でも忘れ、好きなものだけ、思い描けることを願って。(春日)

今日も前に進んでいけなくちゃ、今日これから起こる楽しいことを味わえない。

古典文学と気象のかかわり

日本古典文学の最高峰に位置している『源氏物語』は、気象という分野においても驚くべき描写がなされています。第二巻・帚木で梅雨明け時の様子を描いた「雨夜の品定め」の場面を読むと、紫式部が日常いかに五感を働かせ、一つ一つの気象現象を正確にみつめていたか、ということが分かります。

日本の古典文学は、季節と恋なしには語れないと言われるほど季節は古典文学の要と言えます。恋については多くの和歌があり、研究の対象として論説も多いですが、一方で、季節についてはあまり研究されていません。しかし、人間は、常に天気を気にしながら気象とともに生きてきました。文学を気象という観点から眺めて見ることで、日本人ならではの気象への繊細な感性と気象現象の科学的な関わりが浮かび上がってきます。